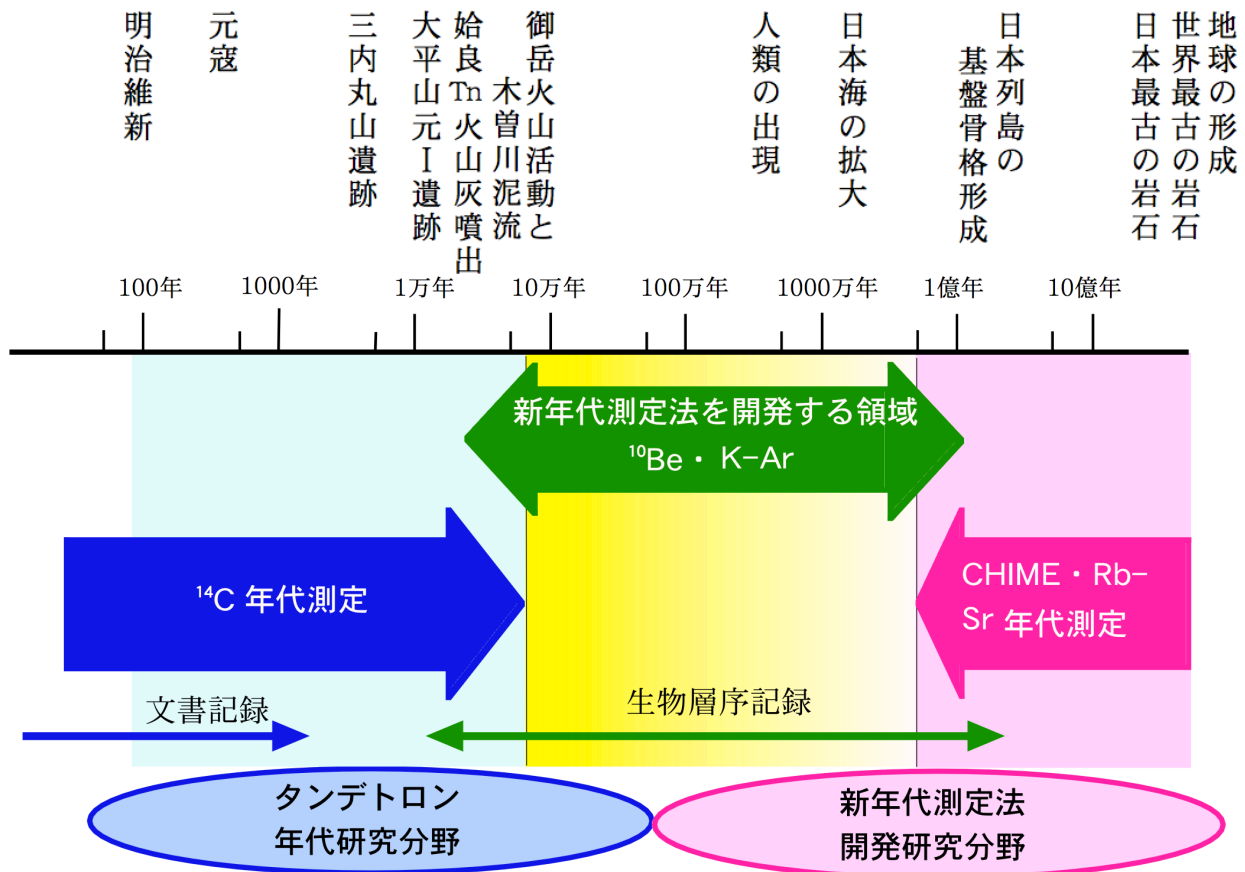


# 名古屋大学 宇宙地球環境研究所 年代測定研究部の概要

平成2年度に設立された名古屋大学年代測定資料研究センターが10年間の時限を迎え、平成12年度から学内共同利用施設としての名古屋大学年代測定総合研究センターに、そして平成27年10月に全国共同利用施設としての宇宙地球環境研究所の基盤研究部門である年代測定研究部に生まれ変わりました。本研究部は、地球史のあらゆるイベントの解析を行うために、タンデトロン年代研究分野および新年代測定法開発研究分野の二分野を構成して、ユニークな研究を実施するとともに、幅広い学術的な共同利用と共同研究に貢献しています。



$^{14}\text{C}$ 年代測定法によって、約5万年前までの地球環境変動と人類文化史についての研究を行うとともに、新年代測定法の開発を $^{14}\text{C}$ 年代から支援します。また、活断層や火山の活動周期をより細密な年代測定から解析する研究や $^{14}\text{C}$ 濃度の時空変動の解析から近未来の地球環境予測に関する研究を進めます。

$^{10}\text{Be}$ などを利用した新しい年代測定法の開発を行って、これまで年代決定ができなかった約6万年前から数百万年前までのイベントを解析する研究を進めます。また、CHIME法を駆使して約46億年前から約1億年前までの長い地球史を詳しく研究します。

## 沿革

- 昭和56 (1981)年 3月 タンデトロン分析計初年度分の搬入 (アイソトープ総合センターに設置)
- 昭和57 (1982)年 2月 タンデトロン分析計次年度分の搬入
- 昭和58 (1983)年 9月 タンデトロンによる $^{14}\text{C}$ 年代測定を開始
- 昭和62 (1987)年 1月 タンデトロンの学内共同利用を開始
- 平成 2 (1990)年 6月 名古屋大学年代測定資料研究センター発足
- 平成12 (2000)年 4月 名古屋大学年代測定総合研究センター発足
- 平成27 (2015)年 10月 名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部発足